

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(グラフィックデザイン科 グラフィックデザイナーコース)

科目区分	授業科目	実務教員による授業	うちシラバス添付	第1学年		第2学年		授業時間数合計	実務教員授業時間数		うちシラバス添付授業時間数	
				週間授業時間数	年間授業時間数	週間授業時間数	年間授業時間数		第1学年	第2学年	第1学年	第2学年
講義科目	就職ガイダンス			2	54			54				
	担任課題			8	32			32				
演習・実技科目	基礎トレーニング			8	16			16				
	PCオペレーション(illustrator)	●		8	24			24	24			
	PCオペレーション(photoshop)	●		8	24			24	24			
	Webデザイン基礎	●		4	36			36	36			
	デザイン基礎講座			4	48			48				
	デザイン演習			4	48			48				
	色彩演習	●	★	4	48			48	48		48	
	造形基礎	●		4	48			48	48			
	構成演習	●		4	48			48	48			
	DTP演習	●	★	4	36			36	36		36	
	企画発想	●		4	36			36	36			
	SPツール(制作・企画)	●		8	24			24	24			
	カタログ(制作・企画)	●		8	32			32	32			
	ブランディング(制作・企画)	●		8	32			32	32			
	Webメディア(制作・企画)	●		8	24			24	24			
	デザイン実践	●		4	68			68	68			
	フォトタッチ	●		4	52			52	52			
	プロジェクトワーク	●		20	80			80	80			
	ポートフォリオ制作			8	32			32				
	広告・販促戦略	●		4	52			52	52			
	DM・フライヤー・ブックデザイン/セールスキャンペーン	●				8	48	48		48		
	ブックデザイン/パンフレット/編集企画	●				8	48	48		48		
	コーポレートアイデンティティ	●				4	48	48		48		
	ブランディング	●				4	48	48		48		
	和文タイポグラフィ	●	★			4	48	48		48		48
	UIデザイン	●	★			4	48	48		48		48
	欧文タイポグラフィ	●				4	48	48		48		
商品企画	●				4	48	48		48			
映像編集					4	48	48					
卒業制作					20	380	380					
その他	体育祭				10	10	20					
	東美祭				70	70	140					
	卒業制作展				10	40	50					
	健康診断				2	2	4					
	個人面談				4	2	6					
	2年次説明会				4		4					
オリエンテーション				12	12	24						
総授業時間数				1,006	948	1,954	664	384	84	96		

2020年度

指導内容書

グラフィックデザイン科 グラフィックデザイナーコース 1年 A・Bクラス

授業名 色彩演習

授業計画進行表(前期)

担当講師 大串由美子

回数・日付	授業内容	回数・日付	授業内容
第1回 4/9	<ul style="list-style-type: none"> 色彩のはたらき・効果 色のしくみ(三属性・トーン) 色とイメージの関連性 【演習課題①】トーンマップ	第10回 6/18	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作 コメント記入方法
第2回 4/16	<ul style="list-style-type: none"> カラーイメージトレーニング パッケージのカラー分析 【演習課題②】パッケージのカラー分析	第11回 6/25	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作
第3回 4/23	<ul style="list-style-type: none"> カラー分析発表(グループワーク) 配色技法_1 配色の基本(色相配色・トーン配色) 【演習課題③】配色ワーク	第12回 7/2	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション(グループワーク) 評価・分析・まとめ → 提出
第4回 5/7	<ul style="list-style-type: none"> 配色技法_2 統一(ドミナントなど) 【演習課題④】配色ワーク		
第5回 5/14	<ul style="list-style-type: none"> 配色技法_3 変化(アクセントなど) 色彩理論_1 混色・色名 【演習課題⑤】配色ワーク		
第6回 5/21	<ul style="list-style-type: none"> 色彩理論_2 対比・同化 カラーイメージスケール 【演習課題⑥】カラーワーク → 次回:中間確認(提出)		
第7回 5/28	<ul style="list-style-type: none"> 代表的なイメージの特徴_1 【作品①②】イメージ作品(ナチュラル)(カジュアル)		
第8回 6/4	<ul style="list-style-type: none"> 代表的なイメージの特徴_2 【作品③④】イメージ作品(クラシック)(モダン)		
第9回 6/11	<ul style="list-style-type: none"> 代表的なイメージの特徴_3 【作品⑤⑥】イメージ作品(ロマンティック)(エレガント)		

授業形式 講義・演習・実験・実習実技

授業内容

色彩の基本知識とともに、配色表現やイメージ表現のテクニックを演習課題を通して身につける。最終課題としてイメージ作品(全6種)を制作し、プレゼンテーション・相互評価・評価の分析も実施予定。

【1~2回目】
色彩の働きや効果、色とイメージの関連性と色彩活用のための基本理論(三属性・トーン)。デザインにおける色の役割や伝達手段として色を有効活用する意味や重要性を確認する。イメージワードをもとに色を選ぶワークやパッケージのカラー分析などの実習を実施予定。

【3~6回目】
表現したいイメージや目的に応じたカラーコーディネートを行うための配色と基本的な色彩理論。配色ワークによって(カラーカードを使用)、配色効果を体感しながら色彩表現力を身につける。

【6~9回目】
イメージスケールを活用し代表的なイメージ(6種)の色彩傾向・特徴を確認。各イメージの作品を作成→最終回に提出。 ※着彩手段は任意(色鉛筆・PC・カラーカードなど自由)

【10~12回目】
作品(最終課題制作)およびプレゼンテーション → 評価・分析・まとめ。
作品①②③④⑤⑥のうち1個を発表課題とする。提出は全作品(6種)。
【講師概要】色彩活用研究所にて社会人、大学、専門学校などに向けて色彩検定をはじめとした資格に関する講義やセミナーを行いながら各種カラーコンサルティングや教材・テキスト制作も行っている。

到達目標

グラフィックデザインを制作する上でターゲットに適切にコンセプト内容を視覚伝達するための色の選び方を演習を通して身に付ける。

成績評価基準

学習内容、作品内容の他にも制作、学習態度等を考慮して評価される。
 評価科目：試験の評価、レポートの評価、出席状況、学習態度等を総合して評価される。
 100-90点：A
 89-80点：B
 79-70点：C
 69-60点：D
 59点以下：不合格

提出課題

- 演習課題①②③④⑤⑥ → 各回の内容に応じて設定 ※中間確認=5/30以降実施
- 作品①②③④⑤⑥ → イメージ作品(6種) ※7/4(最終回)に提出

学生の持ち物、授業内で必要な材料など

- 毎回 → 「カラーコーディネーター入門 色彩」「Color Exercise(色彩活用研究所テキスト)」「新配色カード199a」「新配色カード199用演習台紙」(PCCST-トーン別色相環) はさみ のり 配布プリント ※ピンクの袋に入っているカラーカードを貼る台紙(2枚入り) 通称:トーンマップ
- 必要時に指示 → カラー分析に使用する商品/パッケージ(演習課題②) 色鉛筆・PC・着彩ツールなど課題制作に必要なもの

補足

2020年度

指導内容書

グラフィックデザイン科 グラフィックデザイナーコース 1年 A・Bクラス

授業名 DTP演習

授業計画進行表(前期)

担当講師 岩崎 順

回数・日付	授業内容	回数・日付	授業内容
第1回 5/12,13	ポストカード制作 Adobe Illustratorの復習		
第2回 5/19,20	名刺制作① 文字組の基礎知識		
第3回 5/26,27	名刺制作② 印刷用のデータ作成		
第4回 6/2,3	名刺制作③ デザイン最終チェック・入稿 Photoshopの復習・応用		
第5回 6/9,10	レイアウト基礎① デザインを客観的に考え、再構成		
第6回 6/16,17	レイアウト基礎② 文字・写真・色の複合的な考え方		
第7回 6/23,24	レイアウト応用① ページレイアウトの仕組み		
第8回 6/30,7/1	レイアウト応用② ページレイアウトの構成		
第9回 7/7,8	レイアウト応用③ 最終批評		

授業形式 講義・**演習**・実験・実習実技

授業内容

Adobe Illustrator、Adobe Photoshopを使用した基本的な作業の復習から現場での作業を意識した応用的な技術、実践的なテクニックの習得、そして印刷入稿を行うことによって制作の流れを理解する。

【講師概要】株式会社フラミンゴ・スタジオにて様々な雑誌の編集デザインの制作に関わり、その後独立。現在はフリーのデザイナーとして様々な雑誌のデザインを行っている。

到達目標

Adobe Illustrator、Photoshopを使って印刷会社へ渡す入稿データを作成できるようになる。

成績評価基準

学習内容、作品内容の他にも制作、学習態度等を考慮して評価される。
 評価科目：試験の評価、レポートの評価、出席状況、学習態度等を総合して評価される。
 100-90点：A
 89-80点：B
 79-70点：C
 69-60点：D
 59点以下：不合格

提出課題

- ・ポストカード課題
- ・名刺課題
- ・レイアウト課題

学生の持ち物、授業内で必要な材料など

ノートPC、スケッチブック

補足

2020年度
指導内容書

グラフィックデザイン科 グラフィックデザイナーコース 2 年

授業名 和文タイポグラフィ

授業計画進行表(前期)

担当講師 河野三男

回数・日付	授業内容	回数・日付	授業内容
第1回 4 / 17	<ul style="list-style-type: none"> タイポグラフィ原論 書体の分類表 1: 解説/分類表作成の準備 	第10回 6 / 19	<ul style="list-style-type: none"> ヨコ組み 2: イニシャル・レター 種類/組み方/効果 名刺のデザイン (種類/組み方の注意点) 名刺のデザイン (受注制作: 依頼書に定める) 印刷用紙の種類とサイズ
第2回 4 / 24	<ul style="list-style-type: none"> 書体の分類表 2: 分類表の作成 日本語の特徴: 漢字の歴史 書記言語としての日本語の特徴 	第11回 6 / 26	<ul style="list-style-type: none"> 書籍広告の実践 1: 理解/スケッチ 文字情報の整理法 三八広告の鑑賞
第3回 5 / 1	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の特徴分析 (起筆/終筆) 日本語の特徴: 表記の歴史 (漢字から仮名へ) 特別講義: 中国の書の歴史 (書家の招待) 	第12回 7 / 3	<ul style="list-style-type: none"> 書籍広告の実践 2: 制作/仕上げ 会話形式の組版の種類 (解説のみ) 和文組版の特殊例: ルビの種類/圏点/割注 (解説のみ) 講評
第4回 5 / 8	<ul style="list-style-type: none"> 漢字と仮名の比較 仮名のスペーシング 日本語の特徴: 正書法・表記法 特別講義: 活版印刷機の実演 (技術者の招待) 	第13回 7 / 10	
第5回 5 / 15	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語の解説/映像「母型のできるまで」 スケール (ポイントと級) / 読みやすさ 書体の声と表情: 書体の増幅作用 言葉にふさわしい書体 (ナレーション効果) 	第14回 /	
第6回 5 22/	<ul style="list-style-type: none"> 文章の組み方 (組版の基礎) 書体指定/段落設定/禁則設定 日本語の特徴: 句読法/約物 タテ組み ①: 行長と行送りの関係 	第15回 /	
第7回 5 / 29	<ul style="list-style-type: none"> タテ組み ②: 組版表情の分析 書体の特徴とテクスチュアの比較 文章の特徴とテクスチュアの比較 	第16回 /	
第8回 6 / 5	<ul style="list-style-type: none"> タテ組み ③: 見出しと段落の関係 見出しの種類とサイズ・行取り 	第17回 /	
第9回 6 / 12	<ul style="list-style-type: none"> ヨコ組み①: 和欧と数字の混植 混植での読みやすさ 本文 (文章) とディスプレイの違い 	第18回 /	

授業形式 講義・演習・実験・実習実技

授業内容

授業内容:
 ・日本語の活字組版の基本
 文字組みのない G・デザインはないという現実を踏まえ、G・デザインにおけるタイポグラフィという位置づけです。
 ・実践と解説・講義を通じた指導
 ・漢字と仮名の特徴/活字書体の特徴
 ・読みやすい組み方の実現
 フォーマルな組版に意識を向けさせ、学生の動機を刺激します。
 ・文字組みを中心としたデザインに特化して指導。
 ・活字書体の分類と歴史
 分類と歴史の概略の基本を理解させ、活字の活用法を各自が考えるよう意識を向けさせます。
 ・情報整理の手法、多彩でクリエイティブな組版へ
 組版の基本的な規則を理解させた上で、組版の可能性に向けての思考と志向を強化させます。
 ・授業構成は、以下の通りです。
 ① 毎回テーマを設定し、教科書を基に、その日の授業テーマを解説してから、課題演習に挑ませます。
 ② 学生からの質問・疑問については、なるべく多く受けつけて、授業への積極的な参加を促します。
 【講師概要】元 オックスフォード大学出版局勤務、東洋美術学校 非常勤講師、京都造形芸術大学特別講師。主著『タイポグラフィの領域』(朗文堂)『評伝・活字とエリック・ギル』(朗文堂)、共著『欧文書体百花事典』(朗文堂)など。

到達目標

和文タイポグラフィは日本語の表記と関わるという視点から、日本語への理解・自覚を目指し指導します。

成績評価基準

学習内容、作品内容の他にも制作、学習態度等を考慮して評価される。
 講義科目: 試験の評価、レポートの評価、出席状況、学習態度等を総合して評価される。
 100-90点: A 89-80点: B 79-70点: C 69-60点: D 59点以下: 不合格

提出課題

各課題の提出に際して、感想文を書かせます(理解度と語彙表現力のチェック)。
 書体分類表/ひらがな・カタカナ・漢字の表記の違い/仮名のスペーシング/言葉と書体/行長と行送り 書体のテクスチュア比較/文章とテクスチュア/見出しと段落/和欧混植/イニシャル・レター
 名刺の受注制作/会話形式の組み方/ルビの表/書籍広告

補足

パソコン / 教科書 / スケッチブック (パソコンには、モリサワ・フォントをインストールすること)

2020年度
指導内容書

授業計画進行表(前期 後期)

回数・日付	授業内容	回数・日付	授業内容
第1回 4/17	UIデザインとは UIデザインとは何のデザインであるかを知る。 iOS Human Interface Guidelinesの読み方。	第12回 7/17	学習成果発表 安藤幸央氏をレギュラーとしてお招きする デザイン、IT、等の企業の見学を受け付ける
第2回 4/24	Androidアプリ iPhoneとの比較等、Androidデバイスならではの機能や特徴を知る。 Androidアプリをしてみる	第13回	
第3回 5/8	Material Design Googleのデザインガイドラインやツールについて知る	第14回	
第4回 5/15	GoogleのUI kit Material DesignのUI kitや、Googleの便利なツール紹介	第15回	
第5回 5/22	Material Design Material Designの基本的な概念を学ぶ	第16回	
第6回 6/5	Material Design実習 Google製アプリのデザインをMaterial DesignのUIパーツを使って再現してみる	第17回	
第7回 6/12	企画 2~3人のチームになり、アプリの企画を考え、企画書にまとめる	第18回	
第8回 6/19	プロトタイプ制作 企画を元にワイヤーフレームを作成し、Adobe XD等を使ってプロトタイプを作成する	第19回	
第9回 6/26	中間発表 濱津氏をお招きして、プロダクト作り、技術的、なアプローチでアドバイスをいただく	第20回	
第10回 7/3	デザイン実習 完成に向けての修正や仕上げ	第21回	
第11回 7/10	発表準備 学習成果発表に向けての準備	第22回	

授業形式 講義・演習・実験・実習実技

授業内容

スマートフォンアプリのUIデザインを学習します。
アプリのデザインは、見た目が綺麗なグラフィックをデザインすることだけではありません。
どのようなレイアウト、彩色、構成をしたら使いやすいものになるかの考察が不可欠です。
また、AndroidデバイスとiPhoneではOSや機能の違いがあり、その点も理解した上でのデザインが必要になります。GoogleのMaterial Designの基本的な概念や、デバイスとiPhoneとの違いを学び、より良いスマートフォンアプリのデザインを考えます。
講座の最終日には、外部の方をお招きして完成した作品の発表を行います。
1年次で「UIデザイン講座」を履修しAppleのiOS Human Interface Guidelinesをある程度理解していることが望ましいですが、必須ではありません。

到達目標

この授業では、アプリの見た目の装飾だけでなく、ひとつのツールとしてのデザインを学習することを目標としています。
各チーム企画から制作までを手がけ、最終日の学習成果発表会でプレゼンテーションを行います。

成績評価基準

学習内容、作品内容の他にも制作、学習態度等を考慮して評価される。
講義科目：試験の評価、レポートの評価、出席状況、学習態度等を総合して評価される。
100-90点：A
89-80点：B
79-70点：C
69-60点：D
59点以下：不合格

提出課題

Adobe XDで作成したプロトタイプ、および スクリーンデザイン
Google スライドで作成した企画書、発表資料

学生の手荷物、授業内で必要な材料など

パソコン
iPhone(持っていれば)、PCとiPhoneを接続するケーブル
筆記用具(鉛筆、水性サインペン)

補足(授業内でご使用予定機材等がございましたらご記入下さい。)

正方形のPost it(ふせん紙)
コピー用紙(罫線の無い紙)